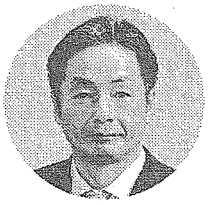
農経しんぽう（7月6日）

タカキタ

新体制が決まる



松本社長

㈱タカキタ（松本充生社長・三重県名張市夏見）は6月26日開催の定時株主総会並びに取締役会において左記の通り役員を選任、それぞれ就任した。（氏名敬称略）

▽代表取締役社長＝松本充生

▽取締役専務執行役員＝松田順一（経営企画室長）

▽取締役常務執行役員＝沖篤義（管理本部長）

▽取締役執行役員＝益満亮（製造本部長兼本社工場長）▽同＝川口芳巨（海外営業本部長）

▽取締役＝西口義久（監査等委員）▽社外取締役＝奥村隆司（同）

▽執行役員＝小松田清（北海道統括室長兼エコフィード部長）▽同＝八木亨（営業本部長兼本州営業部長）▽同＝岡嶋弘（開発本部長）▽同＝田中敏彦（軸受部長）▽同＝松村篤樹（新任・内部監査室長）

農機新聞（7月7日）

エム・エス・ケー
農業機械

西野氏が常務に就任

新任取締役に仲村氏

杉野社長

エム・エス・ケー農業機械㈱＝北海道恵庭市戸磯193－8・☎0123（33）3100・杉野俊樹社長＝は、6月22日開催の定時株主総会に於いて役員の改選を行った。常務取締役執行役員に西野秀樹氏が就任する。また新任取締役執行役員に仲村洋一氏が、新任監査役には相磯哲夫氏と田中浩一氏が就任する。

同社の新陣容は次の通り。

【取締役・監査役】

〈執行役員兼務〉▽代表取締役社長＝杉野俊樹▽常務取締役＝鈴木文男（重任）▽同＝西野秀樹（新任）▽取締役＝伊藤弘▽同＝仲村洋一（新任）

〈他〉▽取締役＝東馬圭一（重任）三菱商事㈱▽同＝浦野輝虎・三菱商事㈱▽監査役＝相磯哲夫（新任）▽同＝田中浩一（新任）三菱商事㈱

【執行役員】

▽執行役員＝田端和男▽同＝織本昭雄▽同＝高橋満▽同＝大西博文

なお、林信正取締役は退任し顧問に就任。増田徹監査役は退任した。

IHIスター

新任取締役に菅谷氏

6月29日付役員選任

㈱IHIスター＝北海道千歳市上長都1061－2・☎0123（26）1123・青柳稔社長＝は、6月29日開催の定時株主総会並びに取締役会に於いて役員選任を行った。それによると新任取締役に菅谷雅広氏が就任した。

新陣容は次の通り。

▽代表取締役社長＝青柳稔▽取締役品質保証部長開発部・調達部担当＝香川譲司▽同・営業本部長物流担当＝杉原友樹▽同・生産本部長管理部・内部統制室担当＝菅谷雅広（新任）▽常勤監査役＝大槻研一▽監査役（非常勤）＝小林清治㈱IHIシバウラ常勤監査役（新任）▽同（同）＝中川昌㈱IHI産業・ロジスティクスセクター内部統制評価グループ担当課長（新任）

なお、取締役物流部・調達部・管理部・内部統制室担当の宮内英貴氏は退任し、社長補佐に就任した。

農機新聞（7月7日）

北海道の農機業界では、毎年フレッシュな顔が登場し、新しい息吹を業界にふき込んでいる。今年も、新しいリーダーが誕生、期待を集めている。ここでは、簡単にプロフィールを紹介する。

東洋農機㈱代表取締役社長に就任した 太田 耕二氏

会社の安定が最も大切

○…4月16日開催の定時株主総会および取締役会において代表取締役社長に就任。10年の歴史を有する老舗企業のトップとして的には、社内の世代交代を図りながら、法人化や農産物の流通など、農業を取り巻く状況を的確に捉えて製品開発を行い、道内はもの舵取りに注目が集まる。「先人の思いを引き継ぎ、会社があってこその個人であるので、最も大切な仕事は、安定した基盤を作り、会社を安定させることだと考えている。具体ちろん道外の農家に対しても貢献していきたい」と力強く話す。

○…今年の3月には、組立と塗装作業のための工場増築が完了し、農業の大規模化、生産性の向上に対応す線を踏襲するが、TPPや農業者の減少といった課題も山積している。2050年には、農家戸数が現在の半分になるという試算もあるので、増築された工場を活かして近い将来の問題点に対応していかなければならない」と説明する。

○…春のスプレヤー、秋のポテトハーベスタといった従来からの商品構成はあまり変化しないと予想しているが、「省人化・半無人化の流れに対応して、安全性を最重要視することはもちろん、能率良く、大規模な面積の耕作を少ない人数で作業ができるような製品を開発していく」と強調する。

○…また、会社の社訓の中には「礼儀正しく仲良くする事」という項目が含まれているが、人間として最も基本的なことであり特に重要と感じている。

農経しんぽう（7月6日）

農機新聞（7月7日）

エム・エス・ケー農業機械㈱常務取締役執行役員に就任した 西野（にしの） 秀樹（ひでき）氏

○…6月22日付でエム・エス・ケー農業機械㈱常務取締役執行役員に西野秀樹氏が就任した。

○…就任にあたり「さらに企業価値を高めお客様に認められる企業体を目指すことで『高貴たる義務（ノブレス・オブリージュ）』を果たしたい。また我社のみならずお客様も世代交代をして来ておりますので、最新技術を若い世代の感覚と目線で共有し、時代の要求に応えられる農業の健全な発展に貢献する事を目指したい」と述べた。

○…国内農業について「円安・原油高などが農業経営を圧迫しており、経営の効率化は益々求められる時代に突入している。日本の食料・飼料自給率達成目標がクラスター事業等でさらに明確になってきており、かつTPP交渉の決着が目前に迫り、強い農業づくりが求められている」との見解を示した上で「お客様と目的意識を共有しニーズを見出すことでの新提案と、修理業務の徹底などにより営農にお役立て頂ければ幸いです」と話す。

○…その中で最初に着手することとして「お客様の求める要望ニーズとそれを叶えられる提案型の営業展開が出来る社員の意識向上に努めると同時に、お客様との接点を多く持てるように訪問頻度を上げ、満足頂ける営業活動を全社員で進める方向性を指し示したい」とした。舵取りが難しい農業情勢にあるが、現場で培った営業企画力による手腕に期待が集まる。

○…昭和28年12月6日生。帯広市出身。昭和51年日本大学商学部卒業。同社入社。十勝支社長等を経て現職。【小】

横顔（211）